

# 電子入札案件工事（委託業務） 内容補足説明書

件 名 河頭浄水場 1 号配水池耐震補強工事

区 分	契 約 担 当
担当部署	鹿児島市水道局 管財契約課 契約係
連 絡 先	0 9 9 - 2 1 3 - 8 5 1 1
担当者名	河野

## [補足説明事項]

入札、指名通知等について不明な点があれば、上記の契約担当に電話等で照会してください。  
設計内容等の質問につきましては、公告文に記載のある期日までに上記、契約担当にて書面により受け付けます。

次の項目については、該当する場合は ☒ 印で表示してありますので、確認してください。

☒ この工事は、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成 1 2 年法律第 1 0 4 号）に基づき、分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の実施が義務付けられた工事であるため、契約に当たり分別解体等の方法、解体工事に要する費用、再資源化等をするための施設の名称及び所在地、再資源化等に要する費用を契約書に記載する必要があることから、設計図書等に記載された処理方法及び処分場所等を参考に積算した上で入札すること。また、分別解体等の方法等を契約書に記載するために、落札者は落札決定後に発注者と協議を行うこと。

☐ この工事等の履行に当たっては、個人情報保護に関する法律に規定する個人情報を取り扱うこととなるので、契約締結に当たっては取扱責任者を定め、契約の履行においては法を遵守すること。

## [その他]

1. 工事実施に当たっては、水運用及び維持管理等に支障とならないよう、工事管理及び施工管理等は、関係部署と密に連携を図ること。
2. 閲覧用設計書及び見積単価一覧表は、あくまでも入札参加業者の適正、迅速な見積りに供するための参考資料であり、鹿児島市水道局建設工事請負契約書で規定する設計図書の一部ではありません。したがって、内容の如何にかかわらず、契約上何ら契約当事者を拘束するものではありません。
3. 間接工事費の算定に係る管材費の対象は、閲覧用設計書の摘要欄に「管材」と明示しているので留意すること。
4. 共通仮設費及び現場管理費は、次の方法により算出しています。
  - ① 算出した共通仮設費率及び現場管理費率を端数処理※する。
  - ② ①で算出された共通仮設費率及び現場管理費率に、施工地域・工事場所区分による補正係数を乗じ端数処理※を行い、対象額を乗じて算出する。※ 端数処理とは、小数点以下第 3 位を四捨五入して 2 位止めすることです。
5. 以下については、鹿児島県土木部の算出方法に則しています。
  - ① 間接工事費等の積算における処分費の取り扱い
  - ② 仮設材の賃料
  - ③ 質量 20t 以上の建設機械の貨物自動車等による運搬の費用

6. 施工内訳表の金額算出方法・端数処理が、鹿児島県土木部積算基準書及び下水道標準歩掛に基づく施工内訳表では、鹿児島県土木部積算基準に準拠し、整数止めとしています。  
それ以外の施工内訳表では、水道事業実務必携に準拠し、小数点以下2位までとしています。（別紙①②のサンプル単価表を参照）
7. 諸雑費の算定方法は、鹿児島県土木部積算基準書及び下水道標準歩掛に基づく施工内訳表では、鹿児島県土木部積算基準に準拠します。  
それ以外の施工内訳表では、水道事業実務必携に準拠し、その諸雑費の適用欄に算定方法を明記しています。（対象コード #09、#99）（別紙①②のサンプル単価表を参照）
8. 週休2日試行工事に係る費用の計上方法は鹿児島県に準拠しています。詳しくは県のホームページをご覧ください。  
（鹿児島県ホームページ＞社会基盤＞公共事業＞技術管理・検査＞積算基準＞積算基準の公表＞工事における週休2日の取得に要する費用の計上に係る計算仕様）

## 施工内訳表

施工内訳0-0001号表

1 m 当 9

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
普通作業員	0.44	人	23,456	10,320.64	R0200 ← $0.44 \text{人} \times 23,456 \text{円} = 10,320.64 \text{円}$ (小数第2位止)
水道用明示シート (見積) 150×W折 50m/巻	100	m	123	12,300	TSSTF8010
諸雑費	1	式		9.36	#99      ← 有効数字4桁になるように端数を計上 水道事業実務必携に準拠
小計 (100m当たり)			22,630	22,630	+00 22630*1
1m当たり単価値			22,630	226.3	+00 22630/100      ←
*** 単位当り計 ***	1	m		226.3	単位当りの金額に計算しています。 閲覧書には数式は表示されません。
					計算例 解説
					1行目 10,320.64円 + 2行目 12,300円 = 22,620.64円
					単位数量が100につき、有効数字4桁に合わせて $22,620.64 / 100 = 226.2064 \text{円} \approx 226.3 \text{円}$ (切り上げ)となります。
					有効数字4桁になるように諸雑費を計上するために、逆算すると、 $226.3 \times 100 - 22,620.64 = 9.36 \text{円}$ (1式計上の諸雑費額) となります。

01-00000000601-40

この施工内訳表内の単価は架空のものです

諸雑費が率計上の歩掛算定例

VSRX0

## 施工内訳表

施工内訳0-0002号表

1 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
水道用耐衝撃塩化ビニル管 HI φ 20 【管材】	10	m.	234	2,340	TSSE201020 9
硬質塩化ビニル管据付工 呼び径 20 mm	10	m	346.1	3,461	SRD01 施工内訳0-0003号表
T S継手工 呼び径 20 mm	5	口	371.65	1,858.25	SRD02 施工内訳0-0004号表 ← 5口 × 371.65円 = 1858.25円 (小数第2位止)
諸雑費	7 %		2,340	163.75	#09 ← 有効数字4桁になるように率以内で計上 水道事業実務必携に準拠
小計 (10m当たり)			7,823	7,823	+00 7823*1
1m当たり単価値			7,823	782.3	+00 7823/10 ←
*** 単位当り計 ***	1	m		782.3	単位当りの金額に計算しています。 閲覧書には数式は表示されません。
計算例 解説					
1行目 2,340円 + 2行目 3,461円 + 3行目 1,858.25円 = 7,659.25円					
この歩掛例では、諸雑費は「資材価格に率計上」となっているため、 7% × 2,340円 = 163.8円以内で計上することになります。					
よって小計までの合計は、7659.25+163.8円以内=7823.05円以内となります。 単位数量が10につき、有効数字4桁に合わせて 7823.05/10 = 782.305円 ≒ 782.30 (切り捨て)となります。					
有効数字4桁になるように諸雑費を計上するため、逆算すると 163.8-(7823.05-782.30×10)=163.8-0.05=163.75円(率の諸雑費の端数調整後) となります。					

01-00000000601-40

この施工内訳表内の単価は架空のものです